

北海道電力グリーンボンド・フレームワーク

1. はじめに

(1) ほくでんグループのスローガン・企業理念

北海道電力は北海道に根差す企業として、「ともに輝く明日のために。Light up your future.」をコーポレート・スローガンに掲げ、責任あるエネルギー供給の担い手としての役割を全うすることで、北海道の経済やお客さまの暮らしを支えてまいりました。

ほくでんグループは経営理念である「人間尊重・地域への寄与・効率的経営」のもと、ESG（環境・社会・ガバナンス）を重視し、地域・社会の皆さまと共に新たな価値を創り上げる「共創」の考え方にに基づきながら、事業の持続的な成長と持続可能な社会の実現に努めてまいります。

(2) ほくでんグループ経営ビジョン 2030

ほくでんグループを取り巻く経営環境は、競争の激化とともに、脱炭素化や技術の進展、高齢化・人口減、お客さまの価値観の変化など社会構造の変容が進んでおり、今後はさらなる加速が予想されます。このような変化に着実に対応していくため、2030年におけるほくでんグループの目指す姿として、2020年4月、「ほくでんグループ経営ビジョン 2030」を取りまとめました。

この経営ビジョンでは、2030年度までに目指す環境目標として「CO₂排出量を2013年度比で50%以上低減（△1,000万t以上/年）」を掲げ、現在、その達成に向けた取り組みを進めています。

また、省エネやお客さまの快適な暮らしにつながる最先端の電化機器のご提案や、運輸・産業における電化を推進し、販売電力量の拡大のみならず、お客さまの省エネ・脱炭素化に貢献していきます。経営環境の変化をグループが進化するための好機と捉え、ほくでんグループの持てる力を発揮し、持続的な成長の実現を目指していきます。

(3) 2050年カーボンニュートラルに向けて

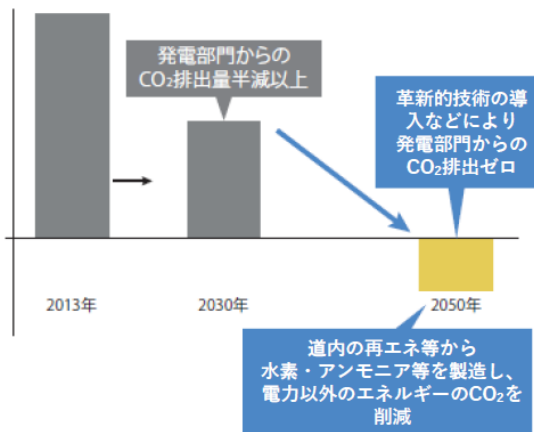
ほくでんグループは、経営ビジョン 2030 の取り組みをより一層深化させ、2050年の北海道における「エネルギー全体のカーボンニュートラル」の実現に向け、ほくでんグループとして最大限挑戦することを表明いたしました。

経営ビジョンで掲げた2030年の環境目標の達成に加え、長期的に「発電部門からのCO₂排出ゼロ」を目指すとともに、家庭・業務部門、産業部門、運輸部門といったあらゆる分野のお客さまにCO₂フリー電気による電化拡大、さらにはグリーン水素をご利用いただくことにより、電力以外のエネルギーのCO₂削減についても貢献していきます。

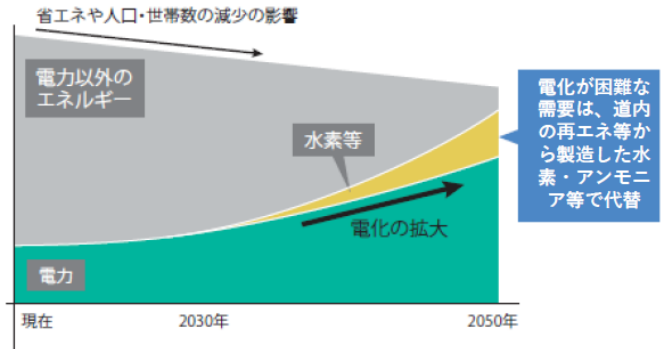
【関連するSDGs】



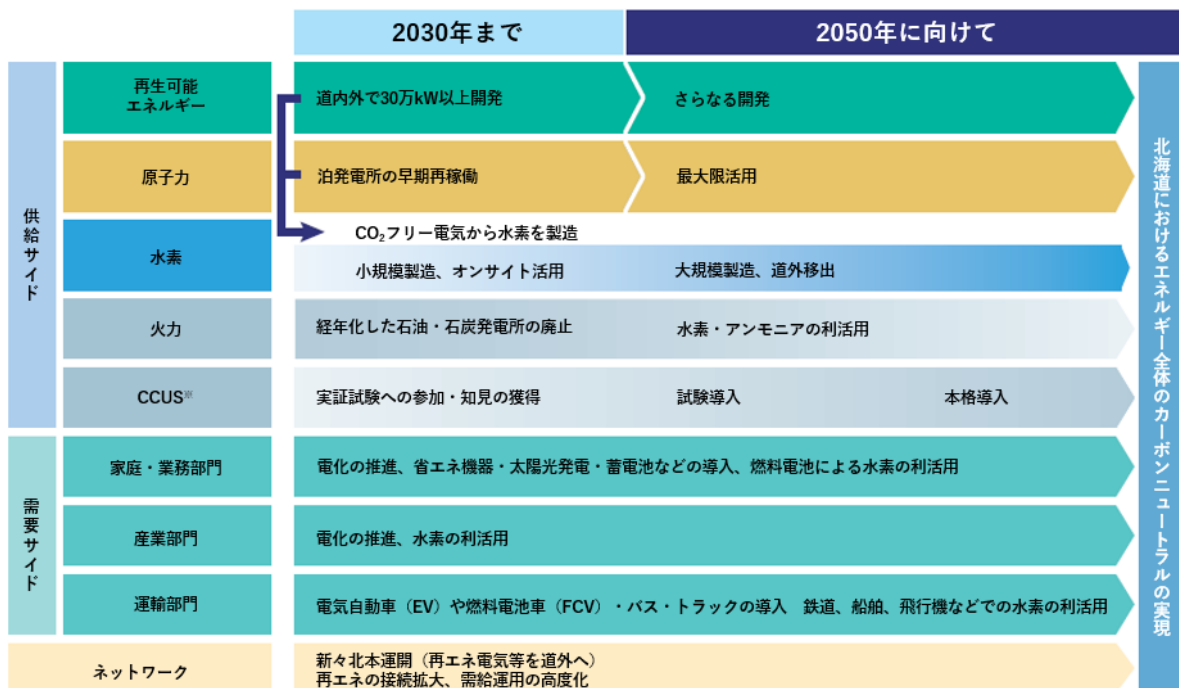
■ 将来のCO₂排出量削減のイメージ



■ 将来のエネルギー需要のイメージ



■ ほくでんグループによる 2050 年カーボンニュートラルに向けたロードマップ



※CCUS (Carbon Capture, Utilization and Storage) : 分離・回収したCO₂を再利用したり、地中へ貯留する技術

(4) グリーンボンド発行の意義

ほくでんグループでは、2030年までにCO₂排出量を2013年度比で50%以上低減(△1,000万t以上/年)させる環境目標を掲げ、2050年の北海道における「エネルギー全体のカーボンニュートラル」の実現に向けて様々な取り組みを進めております。

グリーンボンド発行により調達する資金は、この目標実現に向けた再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業に充当します。グリーンボンド発行を通じてほくでんグループの再生可能エネルギーへの取り組みを推進することで、2030年のCO₂排出削減量目標の達成および2050年カーボンニュートラルの実現にも寄与するものと考えます。

なお、本フレームワークは、以下の原則等に則って策定しております。

- ・ グリーンボンド原則 2021
- ・ グリーンボンドガイドライン 2020

2. グリーンボンド・フレームワーク

(1) 調達資金の使途

グリーンボンドにより調達された資金は、以下の適格クライテリアに該当するプロジェクト（適格プロジェクト）に対する新規投資およびリファイナンスに充当される予定です。リファイナンスについては、グリーンボンドの発行日から遡って36ヶ月以内に支出または出資した事業を対象とします。

【適格クライテリア】

- 水力・太陽光・地熱の再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業

なお、該当するプロジェクトは、潜在的にネガティブな環境面・社会面の影響に配慮しているものであり、当社の定める事業導入手順等に従って、対象設備・案件において設置国・地域・自治体で求められる設備認定・許認可の取得、環境アセスメントの手続きおよびその他の環境影響評価活動等が適切に実施されることを確認した上で進められます。

(2) プロジェクトの評価及び選定のプロセス

資金使途とする適格プロジェクトは、事業を集約する部門が上記（1）の適格クライテリアに適合するプロジェクトを選定し、資金調達部門にて当該プロジェクトが適格クライテリアに適合していることを確認した上で適切な社内プロセスにより承認されます。

(3) 調達資金の管理

グリーンボンド発行による調達資金は、四半期ごとに資金調達部門が内部管理システムおよび専用の帳簿を用い、適格プロジェクトの合計額がグリーンボンドの発行額を下回らないよう管理します。

なお、未充当資金がある場合には、現金または現金同等物にて管理します。

(4) レポーティング

グリーンボンド発行による資金調達の全額が充当されるまでの間、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、年次で公表される「ほくでんグループレポート」および当社ウェブサイト以下に以下の項目を開示します。また、償還期間中、資金充当状況やインパクトに重大な変化があった場合には、その旨を開示する予定です。

① 資金充当状況のレポーティング

- 充当金額
- 未充当金の残高
- 調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額（または割合）

② インパクト・レポーティング

- 再生可能エネルギー種別の設備容量（MW）
- 再生可能エネルギー種別の年間CO₂排出削減量（t-CO₂/y）

以上